

14・日本語表記の標準的なルール

日本語による文章は、漢字・仮名・ローマ字・アラビア数字・記述記号(句読点や括弧など)の組合せで書かれ(表記され)ますが、その書き方(表記)にはルールがあります。

日本語表記のルールは、唯一絶対のものではなく、時代により、また使われる場によりある程度の変化があります。社会一般で慣用されているルール、公的機関(官公庁など)で定めているルール、出版社や新聞社で独自に定めているルールなどがあります。

個人として文章を書くときにも、ルールにもとづいた選択肢の中から、自分なりの方針を選びとることが大事です。一つの文章の中で、ある語句を漢字で書いたり、ひらがなで書いたり、また算用数字と漢数字を併用するなどの不統一な表記は避けましょう。

日本語には縦書き(縦組)と横書き(横組)があります。漢字の使い方、仮名づかい、送り仮名などは、縦書きと横書きでそれほど変わりませんが、数字や単位の表記、句読点などの記述記号の扱いがやや異なります。

文芸コースでは課題や作品を縦書きに書くことが一般的となります。以下に、日本語表記の標準的なルールを示しますので、これを参照して文章を書くようにしましょう。

1. 文体

(1) 「……である」「……だ」調(常体・普通体)

(2) 「……です」「……ます」調(敬体・丁寧体)

原則として、どちらかの文体を用い、二つを混用しない。

2. 段落

長い文章は意味のまとまりなどによって分ける。その一区切りを「段落」という。パラグラフともいう。

段落の一行目は一字下げる。

3. 記述記号

(1) 句読点

・ 縦書きには「。」、「」を使う。横書きには「。」「」、「」または「。」「」か「」の三種類の使用方法があるが、いずれかで統一する。

・ 句点「。」は文末に使う。

・ 読点「、」は文の切れ目や、文の続きを明らかにするときに使う。

(2) 括弧類

① かぎ括弧「」は、会話、強調、注意を引きたい語句、引用文などをくくるときに使う。

② 二重かぎ『』は、①の「」の中でさらに会話、強調、注意を引きたい語句、引用文などをくくるときに使う。また、書名をくくるときに使う。

③ パーレン() は、語句の説明などをくくるときに使う。

(3) 句点とかぎ括弧の関連——どこに句点をうつか。

① 「」が文中にあるとき。

② 「」が文末にあるとき。

③ 段落の文全体が「」でくくられているとき。

④ 段落の最後の文が「」でくくられているとき。

(4) 句点とパーレンの関連——どこに句点をうつか。

① 直前の文に説明を加えたり、状況を示すとき。

② 文全体の注釈、筆者名、クレジットなどを示すとき。

① 外来語、外国の地名や人名のくぎりに使う。

(5) 中黒

【例】 クリエイティブ・ライティング ポストン・ティー・パーティ
ウイリアム・モリス W・S・ピーターズン

* 中黒の代わりに二分ハイフン（ーまたは＝）を使うこともある。

【例】 アンリ＝ジャン・マルタン

② 名詞を並べるときに使う。

【例】 水星・金星・地球・火星
* 読点「、」でもよい。 水星、金星、地球、火星

(6) 感嘆符・疑問符

① 感嘆符・疑問符の次は句読点をつけないで、全角アキとする。ただし、行末にきた場合と、かぎや括弧のウケ「』」「～」がつづく場合は、全角アキとしない。

【例】 いったい何の音だ？ 教室の隅のほうからパリパリという音が聞こえてくる。なんと学生がカタヤキノバを食べている！ 「キミ、そこで何をしているのだ？」と私は尋ねた。

② 感嘆符・疑問符のつく文で、その前後に文意の切れ目がない場合は、全角アキにしない。なお、この場合は（？）（！）という書き方もある。

【例】 いったい何の音だ？と違って教室の隅のほうを見ると、なんと学生がパリパリという音を立てながらカタヤキノバを食べているではないか！ しかも、うまそうな匂い（！）まで漂わせている。

(7) リーダーとダッシュ

文中のリーダーとダッシュの長さは、原則として二字分とする。

【例】 ということだが……。 ということだが――。

「えっ、……」「えっ、――」「……！」「――？」

* 「大阪―京都間の新幹線切符」などの場合は全角ダッシュ（二字分）とする。

(8) 行頭にきてはならないものは、つぎのもの。

句読点 感嘆符 疑問符 かぎや括弧のウケ「』」「～」

(9) 行末にきてはならないものは、つぎのもの。

かぎや括弧のオコシ「『」「～」

4. 数字の書き方

縦書きでは漢数字（一、二、三……）を使用し、単位語（十、百、千、万、億、兆）を入れて書くのが原則だが、現在では単位語を省略する書き方も広く使われる。また、最近では、縦書きであるにもかかわらず算用数字（1、2、3……）を使用することも多くなっている。

(1) 縦書きで漢数字を使用し、単位語（十、百、千、万、億、兆）を入れて書く表記。

【例】

二十一世紀 平成二十五年 十二月三十一日 三百六十五日

五十年 三百五十人 二時間十分三十二秒 十八歳十一月

二十代 百個 千頭（二千頭） 五千二百円

零度三分 零下三十度 四十一億九千二百万円

四十二・一九五 三分の二 五万分の一 百パーセント

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】 西暦には単位語を入れない。二〇二二年 一九九九年 六四五年

【例外】 小数の場合は「零・五」とはしない。〇・五

【例外】 次にあげるようなものは単位語を入れない。

電話番号、郵便番号、列車番号、部屋番号、国道など。

ダイヤル一〇番 千六〇六・八二七一 のぞみ二三七号 四〇一号室

国道一七一号線

(2) 縦書きで漢数字を使用し、単位語を省略して書く表記

単位語を省略するといっても、省略できるのは「十、百、千」で「万、億、兆」は入れて書く。

【例】

二二世紀 平成二五年 二月三十一日 三六五日 五〇年

三五〇人 二時間一〇分三三秒 一八歳一ヵ月

二〇代 一〇〇個 一〇〇〇頭 五二〇〇円

〇度三分(零度三分) 零下三〇度 四一億九二〇〇万円

四二・一九五 三分の二 五万分の一 一〇〇パーセント

【例外】 漠然とした数(数字の前後に「数、幾、何」などがつく概数)は単位語

を省略できない。

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】数量ではなく熟語のような言葉、たとえば「一枚上手だ」「一歩ゆずる」「一本釣り」「一番じょうずだ」「百も承知」「万が一」などは、単位語を省略したり、算用数字では表さない。横書きの場合も漢数字にする。

(3) 縦書きで算用数字を使用して書く表記

算用数字で表記するときは、単位語は「十、百、千」を省略し、「万、億、兆」は入れる。

二桁の数字は、半角数字を横に並べ（縦中横）、三桁以上は全角数字を縦に並べる。

【例】

21世紀 平成25年 12月31日 365日 350人

2時間10分32秒 18歳11ヵ月 100個 1000頭 5200円

0度3分 零下30度 41億9200万円

42・195 3分の2 5万分の1 100パーセント

【例外】漠然とした数（数字の前後に「数、幾、何」などがつく概数）は単位語を省略しない漢数字を使い、算用数字は使わない。横書きの場合も同様。

数十人 何百年 二百数十メートル 二千百十数キロ

【例外】ことわざ、歴史的用語、熟語、副詞として使われた次のような言葉は算用数字ではなく、漢数字を使う。

「百害あって一利なし」「一石二鳥」「三三九度の盃」「三振」「一番美しい」「一等早い」

5. かなづかい

原則として、語を発音にしたがって書きあらわすが、慣習を尊重したいくつかなの特例がある。

(1) 助詞の「は」「へ」「を」の表記。

【例】

私は、大学へパソコンを持っていく。

文章は「てにをは」がだいじだ。

こんにちば こんばんば

(2) 動詞の「言う」は、「いう」と書く。明確に「発音する」という意味の場合には「言う」と書く。

【例】

そういうことを言う ×そういうことを言う。

いうことを聞け ×ゆうことを聞け。

何というか ×何とゆうか

(3) 「ち」「つ」が連なることで濁音になった場合は、「ち」「つ」を用いて書く。

【例】

つづく（続く） ちぢみ（縮み） つづみ（鼓） つづる（綴る）

ちぢんまり ちかぢか（近々） ちりぢり（散り散り） まぢか（間近）

つねづね（常々） つれづれ（徒然）

【例外】 いちじく いちじるしい

(4) 長くのばして発音する（長音）語の表記で注意すべきもの。

おとろさん（×おとおさん） きのう（×きのお） おおい（多い ×おうい）

おおい（大きい ×おうきい） こおり（氷、郡 ×こおり）

とおい（遠い ×とうい） とおり（通り ×とうり） ほお（頬 ×ほう）

ほのお（炎 ×ほのう） かれい（鱈 ×かれえ） せい（所為 ×せえ）

6. 送りがなの付け方

(1) 送りがなは、その漢字の読み方を明らかにするために、漢字に添える「かな」である。読み間違われないように送りがなをつける、という考え方で行なう。

【例】

起こる、起きる（×起る） 当たる、当てる（×当る） 終わる、終える（×

終る） 変わる、変える（×変る） 混ざる、混じる、混ぜる（×混る）

集まる、集める（×集る）

*ポイントは、送りがなが二通りある場合（例えば「表す」「表わす」、「現れる」「現われる」、「行う」「行なう」など）は、ひとつの文章の中で二通りが混

在しないようにする（どちらの書き方にするか方針を決めて書く）。

(2) 複合の語（漢字二字以上を用いて書き表す語）の送りがなはそれぞれの漢字の送りがなをつけるが、読み間違えるおそれのない場合は、送りがなを省くことができる。

【例】

申し込む、申込む 打ち合わせる、打ち合せる、打合せる 聞き苦しい、聞苦しい

(3) 慣例により送りがなをつけない語がある。

【例】

関取 取締役 取扱説明書 西陣織 鎌倉彫 清水焼
小包 踏切 請負 両替 組合 手当 乗組員
子守 献立 日付 物語 割合 織物 建物 受付

7. 漢字の使い方

漢字の多い文章は紙面が黒くなり、読者にむずかしい印象をあたえる。また、パソコンで文章を作ると、ついつい漢字変換を使いすぎて、手書きでは書けないむずかしい漢字を使ってしまいうので注意する。読者にとっての読みやすさを考慮して漢字とかなの使い分けをする。

原則として、漢字ではなく、かな書きにする言葉はつぎのようなものがある。

(1) 助詞

【例】 一〇歳くらい（×一〇歳位） 一〇グラムほど（×一〇グラム程）

教科書など（×教科書等）

(2) 感動詞

【例】 ああ（×嗚呼） ありがとう（×有り難う） おはよう（×お早う）

(3) 接続詞

【例】 あるいは（×或は） すなわち（×即ち） ただし（×但し） なお（×尚）

(4) 形式名詞（主語にならない名詞）

【例】 そのうちに（×その内に） 聞いたことがない（×聞いた事がない）
いま来たところだ（×いま来た所だ） そんなときに（×そんな時に）

そういうものだ（×そういう物だ） 見たとおりに（×見た通りに）
あんなふう（×あんな風に）

(5) 本来の意味が薄れていて、上の語の補助の働きをしている言葉。

【例】 ……という（×と言う） ……である（×で有る） ……でない（×で無い）

……していく（×して行く） ……になってくる（×になって来る）

……になっている（×になって居る） ……にすぎない（×に過ぎない）

……してみる（×して見る） ……してほしい（×して欲しい）

(6) 副詞（多数あるが、代表的なもの）

【例】 いっぱい ごく さらに ぜひ たくさん たとえ ちょうど なぜ
なにぶん なんと のちほど ほとんど ますます めったに いっそう いっ
たい いっぺんに きわめて けつして ことに ずいぶん すでに だいたい
たいへん たとえば たぶん もちろん もっとも おもに たがいに
わりと いまさら なにかと

(7) 接頭語・接尾語

【例】 お菓子 太りぎみ 悲しげ 五分ごと 読みづらい 彼ら 私たち
低め

(8) 当て字など

【例】 あくび（×欠伸） おかしい（×可笑しい） ごさいます（×御座います）
ごまかす（×誤摩化す） でたらめ（×出鱈目） めちゃくちゃ（×滅茶苦茶）

8. 外来語の表記

外来語とは、外国語で、日本語表記をあてて用いるようになった語である。外国語をその発音どおりに日本語（カタカナ）で表記することには、そもそも無理がある。同じ外国語でも、日本語での表記がいくつかある場合があるが、一つの文章のなかでは、表記の統一をはかるようにする。

最小限注意すべきことはつぎの項目。

(1) ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェの使用

下くちびるを嚙んで発音するvは日本語にはないので、一般にはバ、ビ、ブ、

べを用いるが、原音になるべく近く書き表そうとする場合には、ヴァ、ヴィ、ヴ、ヴェを使う。その場合、一つの文章中では、他の単語もその原則にしたがうようにする。

【例】 ヴァイオリン(バイオリン、violin) ヴィーナス(ビーナス、Venus)
ベートーヴェン(ベートーベン、Beethoven) ヴィヴァルディ(ビバルディ、Vivaldi) キャンヴァス(キャンバス、canvas) レビュー(レビュー、review)
インタビュー(インタビュー、interview)

(2) 長音および英語の語末の -er, -or, -ar, また -dy, -ty, -py などは、旧来は音引の「ー」を用いて書くことが多かったが、最近は省く傾向にある。一つの文章中ではなるべく一方に統一する。

【例】 メイク(メーカー) レインコート(レインコート) コンピュータ(コンピュータ) エレベータ(エレベーター) トランジスタ(トランジスタ) パーティ(パーティー) ダンディ(ダンディー)

9. 欧字と欧文の表記

縦書きに欧字や欧文を書く場合の注意。

(1) 単語や短文は、半角英数の横書きで入れる。

【例】

ジョンは出会うなり、Helloと手をあげ、笑顔で Nice to meet you と言った。

(2) 略語は、全角英数の縦書きで入れる。

【例】 彼はNPOで働いている。ICBMとは大陸間弾道ミサイルのことだ。

10. おぼえておきたい記述記号(約物)

(1) くぎり符号

。 句点、マル

、 読点、テン

・ ピリオド

、 コンマ

・ 中黒(なかぐろ)

? 疑問符

! 感嘆符

/ 斜線、スラッシュ

(2) 括弧類

「」 かぎ、かぎ括弧

『』 二重かぎ

() パーレン、括弧

〔 〕 亀甲(きつこう)

「」 ブラケット

〈〉 山がた、山括弧

《》 二重山がた

(3) つなぎ符号

ハイフン

— 全角ダシ *音引のーや、漢数字の一と間違わないように注意する。

—— 二倍ダシ

— 二分ダシ

〽 波形

… 三点リーダー

(4) するし物

* アステリスク

※ 米印

① 丸中数字

❶ 白ヌキ数字